

平成 25 年 4 月 24 日

報道関係者各位

ガラス透光パネル「L I T E W I N D (ライトウインド)」が
遮音壁として圏央道 さがみ縦貫道路と京都縦貫自動車道 京都第二外環状道路に採用
特許出願中 (特願 2011-159851)

日鐵住金建材株式会社 (社長 増田規一郎) のガラス透光パネル「L I T E W I N D (ライトウインド)」が、衝撃に強く視界性・耐候性に優れた遮音壁としてNEXCO中日本とNEXCO西日本の2つの路線で、新規採用されました。

採用区間は、平成 25 年 3 月 30 日に開通した首都圏中央連絡自動車道 (圏央道) の海老名 IC~相模原愛川 IC 間 (10.1km) で、高さ 1 m×幅 4 mのガラス透光パネル約 1,400 枚、5,330m²を納品し、また、平成 25 年 4 月 21 日に開通した京都縦貫自動車道 大山崎 JCT・IC ~沓掛 IC 間 (9.8km) では、高さ 2 m×幅 4 mのガラス透光パネル約 700 枚、5,250m²を納品しています。

透光部は、従来の樹脂板 (ポリカーボネート板、アクリル板) とは異なり、特殊材料を挟んだ3ミリと3ミリ (4ミリ) の合わせガラスを使用し、耐衝撃性能と透明性を兼ね備えた構造となっています。

「L I T E W I N D (ライトウインド)」の特長は次の通りです。

■化学強化ガラスを使用

イオン交換法などの化学処理によって強度を向上させた化学強化ガラスを使用しています。化学強化ガラスは、薄い板厚でも高強度なことからコピーやスキャナーガラス、また最近ではスマートフォンやタブレット端末に広く採用されています。

■視界がスッキリ

耐燃性能が高い化学強化ガラスは、通常の耐火ガラスのような網が不要で、視界がとてもクリアです。

■高い耐候性で長期に渡り透明度を保持します。

無機質のガラス素材は、長期に渡り透明度を保持し、NEXCO基準である促進暴露5,000時間後も、その違いは目視ではほとんど判りません。

■軽量で取り扱いに優れる

従来の樹脂板を使用した透光パネルと同じく軽量なので、人力での小運搬が可能など、現場の取り扱いに優れています。

<採用路線>

圏央道（首都圏中央連絡自動車道）は、首都圏の道路交通の円滑化、沿線都市間の連絡強化等を目的とした都心から半径およそ40～60kmの位置に計画されている総延長約300kmの環状の自動車専用道路です。

京都縦貫自動車道は、南北に長い京都府を縦貫し、京都北部と南部の連携を強化、地域の活性化を図ると共に、高規格道路網の脆弱な京都市街地の外環状道路としての役割を果たす等を目的とした延長約100kmの自動車専用道路です。

今後とも当社は、道路環境製品の開発とご提供を通じて社会貢献に努めてまいります。

[本件に関するお問合せ先]

日鐵住金建材株式会社 道路環境商品営業室 根本 Tel:03-3630-4771

日鐵住金建材株式会社の会社概要

【本 社】東京都江東区木場 2丁目 17-12

【代 表 者】代表取締役社長 増田規一郎

【資 本 金】59億 1,250万円

【設 立】昭和 48年 4月 20日

【事業内容】鉄鋼建材製品の製造・販売

【ホームページ】<http://www.ns-kenzai.co.jp/>
